

## 2022年度 活動方針

### ●はじめに

この2年間、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、日常生活や経済に大きな影響を与えると共にコーダイ運営にも影響を及ぼしました。環境は大きく変わり、生涯学習校の在り方も問われる時代に入りました。

そんな中、将来を見据えてコーダイを大きく変えて行こうという「ニューコーダイ創造」活動を始めましたが、まだまだコーダイ関与者に浸透していないのが現状です。コロナの影響もあり「ニューコーダイ創造」活動は少し出遅れましたが、時間は待ってられません。

今年度はこの活動を各部門長が先頭を切って自部門に浸透させ、実現に向けて行動力を発揮してもらいます。同時に全校挙げてこの活動に取り組みながら「ニューコーダイ創造」の骨格を構築します。合言葉は「その方針や活動内容はニューコーダイ創造に合致していますか？」です。

With コロナはまだ数年は続くということを念頭に置きながら、15周年になる2023年度までには「ニューコーダイ創造」の足場をしっかりと固めます。

### ●基調方針

1. 先を見据えて広く人材を公募・発掘し、将来のコーダイを担う人材育成を図りながら次世代にスムーズなバトンタッチが出来る環境創りに注力いたします。
2. 各部門長が先頭に立って「ニューコーダイ創造」実現に邁進し、各部門内でやるべき「ニューコーダイ創造」の目標を自部門内に徹底させ、部門間連携を深めながらスピード感を持って実現してもらいます。
3. なにわの宮会は「ニューコーダイ創造」が全校挙げての活動になる様に、この内容を受講生に浸透させ受講生が「ニューコーダイ創造」を体感出来、提言できる様な活動を行います。
4. コーダイの重要な役割を担い、コーダイの核でもあるCDが力を発揮し易い環境創りに引き続き注力します。  
例えばソフト面では通年研修を本格的に実施し、CDの人材育成を図ると共に専門家によるカウンセリング窓口の設置等やハード面での環境改善を進めながらCDが活動し易い環境づくりを進めます。
5. 従来から問題のある午後の時間の活動にメスを入れ、午前の授業だけでなく午後の自主活動時間も十分楽しめる様に現場を預かる教育部門が中心になって取り組み、CDのサポート、特に新人CDのサポートも含めてしっかりと対応します。  
昨年同様、目配り・気配り・心配りでスピーディかつタイムリーな現場対応を推進しながら

ら CD と協働して快適な学習の場を構築していきます。

6. 戦略企画部門は将来のコーダイ像を念頭に置いて、快適な学習の場(教室問題等)の提供をも含めた「第2次5年先を見据えた戦略」を策定します。また、「子どもから高齢者まで笑顔と活力で満ち溢れる生涯学習校」を目指したアクションプランのサポート等も行います。
7. 教科研究部門は学習の多様化やこれからの生涯学習校の在り方を検証し、科目力アップや提案制度の強化を図りながら科目の統廃合、科目の見直し、新規科目の開発を推進し、積極的に科目の新陳代謝を図り、受講生の満足度を高めていきます。  
同時に教育部門とも連携しながら科毎の期末アンケートを実施し、受講生の意見を吸い上げ、カリキュラムや科目のバージョンアップを図れる様な仕組みを構築します。  
その為にも、講座改革委員会は分野別専門部会の活動を強化して衆知を集め、データの蓄積や魅力的な講師発掘のネットワーク構築と情報の共有化を行い、数年先を見据えたカリキュラム構築制度の検証・改善を推進します。
8. 市民公開講座は受講生だけでなく、広く一般市民の参加を促す様なテーマ・開催場所・開催のタイミング等を念頭に置いて年初に企画立案します。この市民公開講座開講で受講生には受講科目以外に関心のあるテーマを積極的に受講していただける様に、また、一般市民の方々に対しては、コーダイの認知度アップやコーダイへの応募促進につながる様な効果を生み出す様にいたします。受講生は原則無料、一般市民は有料とします。
9. 事業部門は前年度から検証中の従来事業の洗い直しを完結させます。そして、新たな魅力ある事業をも構築して参加者の満足度を高める事業活動に注力できる様にします。  
また、KOUDAI AWARD、DDSの内容を見直し、これらの認知度を高めると共に多くの人々の理解を得ながら活動の活性化を図り、社会参加活動の裾野を広げていきます。
10. 情報管理部門は数年先を見据えたコーダイのデジタル化に向けて、前年度から活動中のコーダイネットワークシステムに関するインフラ整備を構築し、人材を投入しながら全校的な業務の効率化・オンラインの促進を目指した活動に注力します。  
同時に、各部門も自らデジタル化による業務の効率化を推進していきます
11. 子ども事業部は学習内容や学べる場の拡充・充実を引き続き検証し、子ども達に楽しみながら学べる場の提供を推進していきます。  
スタッフ、受講生、OB等コーダイ関与者間の連携をさらに深め、余裕のある活動が出来る様に努めていきます。
12. 経理部は人材を投入し、経理業務の効率化と精度アップを図りながら財務システムの強化を推進します。同時に各部門長が自部門の経費についてしっかりと管理できる様に指導していきます。  
事務局は縁の下の力持ちとして、よりきめ細かいサポートに努めます。また、重要書類・設備等の整備と管理について、各部門を指導しながら整備と管理の徹底を図ります。
13. 広報はコーダイの顔としてコーダイをより一層、一般市民にアピールできるシステム構築を行い、コーダイの認知度を高める活動に注力します。  
ファンド部は寄附金徴収システムを見直し、広く一般市民の方々、企業等からの寄附金の

増加を図れるシステム構築を行い、社会参加活動のすそ野を広げ活動の活性化と活動内容の充実化をサポートします。

そして、早い時期に寄附金の一部は社会参加活動だけでなく、生涯学習にも運用できる様に検証してまいります。

14. コーダイの理念にある地球環境問題に本格的に取り組み、コーダイ関係者に周知徹底を図りながら全校挙げてコピー、チラシ等の印刷物削減に取り組みます。また、倉庫の断捨離を徹底して行い、CDのワークスペース確保にチャレンジするためにプロジェクトを起こして活動します。
15. コーダイグループである大阪区民・府民カレッジ、校友会と協働し、グループの在り方も含めて検証しながら、コーダイグループの強化と相互発展を推進出来る様に努めます。
16. コロナ禍で活動が停滞している関西シニア大学校・大阪シニア大学校交流会については活動内容を検証しながら更なる深化を追及し、コーダイのレベルアップに繋げていきます。

最後に、コロナ禍を機にコーダイは「ニューコーダイ創造」という大きな改革にチャレンジします。しかし、それは一人ではできません。多くの皆さんの協力と支援が必要です。残された時間はあまりありません。同時に改革のスピードも求められています。

結果を焦り過ぎず、また前のめりにならず、地に足をしっかりと付け、一步一步着実に目に見える様な結果を本年度中に出してまいります。

## ●教育部門

### <教務部>

この2年間、新型コロナウイルス対応に追われ、教室運営にも影響を及ぼしました。

コーダイの重要な役割を担い、核でもあるCDが力を発揮できるような環境づくりや、研修をとおした人材育成を図ると共に、困ったときに専門家によるカウンセリングを受けられるような、安心して活動がし易くなるような環境の改善を図っていきます。

目配り・気配り・心配りでスピーディかつタイムリーな現場対応、困ったときの身近な存在として、CDと協働した快適な学習の場をできる範囲で提供してまいります。

従来から課題のある午後の「自主活動」時間についても、スムーズに運営できる様に、CDのサポート、特に新人CDのサポートも含めてしっかりと取り組んでいきます。

昨年、齟齬のあった「自主企画講座」についても、しっかりフォローしてまいります。

また、他部門と連携しながら科毎の受講生の意見を吸い上げ、カリキュラムや科目のバージョンアップを図り、KOU DAI AWARD、DDSの認知度を高めると共に、社会参加活動に多くの人々の理解を得るように案内を進めていきます。

そして、コーダイの理念にある地球環境問題にも取り組んでいきます。

### <教務事務部>

教務部と連携しながら回付される講師承諾書、講座実施報告書などの書面を元に、謝金等の計算など後方支援を確実にし、スムーズな学校運営に協力します。

### <学習事業推進部>

学習事業についてビッグイベントである「ジョイフルゲームズ」は、長居陸上第2競技場で10月13日（木）開催する予定です。

また、「コーダイフェスタ」については、曜日別開催として、11月14日（月）から18日（金）までの5日間、教育会館7階ホールをメイン会場として実施することになっています。

### <校友会連絡部>

ニューコーダイ創造の精神に則り、校友会に対する受講生の理解・関心を深める為の活動を増進し、校友会団体それぞれの活動を活発化し、コーダイ及び地域での結びつき、理解を深め、同時に各地域においてコーダイをアピールいたします。校友会へのより確かな関心を促進すると共に、コーダイとの両輪の意識を促進し、入会に結びつけるよう努力いたします。

## ●教科研究部門

教科研究部門は魅力的な科目・講座を受講生に提供していくことが最大のミッションです。学びのニーズの変化や多様化に敏感に対応していくことが求められています。受講生の多くが、コーダイでこれからも学び続けたいという意向がコーダイアンケート結果からも伺えます。そのためには科目・講座がマンネリ化にならないように常に新鮮さを保っていく必要があります。それを念頭において、今年度の活動として、理事長方針を基調に以下のように設定いたしました。

1. 今後の生涯学習校の在り方を今後も継続して調査研究していきます。
2. 科目力アップと科目の統廃合、科目の見直し等、スクラップ&ビルドを行い、常に新陳代謝を図り、受講生の満足度を高めていきます。
3. 提案制度の仕組みや体制の強化と提案内容の活用を図りながら、新規科目の開発を行っていきます。
4. 同時に教育部門とも連携しながら科毎の期末アンケートを実施し、受講生の意見を吸い上げ、カリキュラムや科目のバージョンアップを図れる様な仕組みを構築します。
5. その為にも、当部門が主管する講座改革委員会は分野別専門部会の活動を管掌して、情報の蓄積や魅力的な講師発掘のネットワーク構築、情報の共有化を行い、数年先を見据えたカリキュラム構築制度の検証・改善を推進します。

## ●戦略企画室

1. 戦略企画室は理事長方針に沿って業務指示事項の実施に当たっては、関連部門と協働してスピーディに具現化を達成します。
2. 「ニューコーダイ創造」率先垂範を目指し、活動の推進役が担えるよう創意と工夫が発揮出来るよう環境づくりを進め、コーダイ関係者の皆さんと心を合わせた活動を通して、大改革に挑戦します。

3. 第二次「中長期計画策定」に当たっては、ビジョンとして『子どもから高齢者まで笑顔と活力で満ち溢れた生涯学習校』を念頭に置いた計画策定を進めます。  
実践に際しては、アクションプランを基にきめ細かく進捗管理が容易と成るよう工夫を凝らします。  
また、コーダイを取り巻く諸環境が大きく変化をする中での対応として毎年度末には、計画の見直しを実施します。中長期計画が、常に新鮮で期待が持てる中身であるようにローリング活動を実行します。
4. 関西圏・首都圏シニアカレッジ交流会、大阪シニア大学校交流会を支え、幅広い活動で更なる進化を追求します。結果として、コーダイのレベルアップ及び知名度アップに繋がります。
5. 阪神奈大学校・研究機関生涯学習ネット（大阪府主催）に加盟して、活動を展開します。コーダイ講師による市民公開講座を通して、広く市民へのコーダイ広報を推進します。
6. 毎年度末実施の受講生アンケートを継続して、受講生目線で見たコーダイ改革の芽を見つけ出し、改革に繋げていきます。
7. 快適な学習環境の実現に向けた、新しい立地場所の探索及び使用可否などの検証についてトライします。

## ●事業部門

これまで行ってきた事業の洗い直しと、参加者に満足してもらえる事業の構築を目指します。

音楽関係だけではなく、幅広い分野での魅力ある行事の計画・実行に向けて動きます。

これからも安心してより一層、充実した毎日を送るための一助になるように、との思いです。

### <事業推進部>

「受講生に喜んで頂ける」そして、「今の私たちが理解しておく役立つ」を基本テーマとして、それぞれが達成できるような事業の実施を目標にいたします。

魅力ある事業、参加により満足を得られる事業です。

高齢化社会を元気に過ごすために、そして、身近な問題に適切に対応できるための一助となることなどを等をテーマにした公開講座の計画もその一つです。

昨年断念せざるを得なかった大阪桐蔭吹奏楽のコンサートや受講生による歌声広場も今年度の実現させるべく準備に入ります。

皆さんの生活を守るささやかな手助けとして、大阪府の協力を得た講習会の実施を計画いたします。年2回の救命措置講習と特殊詐欺被害防止対策講習会です。

養父市との事業連携の一環として、郊外での1日体験等を提案できるような企画を検討いたします。相互訪問による人的交流の再開を見通せる状況になりましたので、具体案の作成に入ります。

コーダイの重要な柱である社会参加については、大阪の伝統文化承継のための支援を目的と

した講演の実現に向けて一步を踏み出します。

収益を伴う事業の計画もこれからの大きな課題ですが、成果を上げるには至っておりません。多くの皆様からのご意見をお聞かせ頂きながら動きを加速させていきます。

#### <BSC>

BSC 部門は大きな転換点に入っているとの認識の下に活動していきます。これまでの制度の内容の見直しです。

KOUDAI AWARD は地域貢献活動に功績のある受講生を表彰する目的ですが、コーダイの理念との一致に関して皆さんの理解が得られるよう一層の努力をしていきます。対象者や表彰基準、審査委員構成の見直しなどの作業はもちろんですが、応募者を増やすためにはまず、受講生との対話を通じて制度の存在そのものを知って頂く事が最優先であると考えます。

多くの皆さんが既にされている地域活動事例の紹介や、これからしてみたいと思われる活動はどのようなものか、これまでのアンケートを基にお知らせすることもいたします。

さらに、これから新たに地域での活動を目指しておられる方々への応援の方法も課題です。

2022 年度も SA（シルバーアドバイザー）養成講座 2 科目が開講されます。

暫くは活動の制限が続くと予想される中で、大阪府の認定に向けた受講生それぞれの地域活動を、事業部としてできる限り支援いたします。

### ●子ども事業部門

子ども科学実験教室を通じ子どもたちは科学に精通し、その保護者達はますますコーダイに期待をされ、私達スタッフはそれらを目の当たりにし充実感を覚える。これら三位一体の事象が今回、国の内閣府より表彰された。これからも自信をもって各施策を実行していきます。

1. 「法円坂子どもプラザ」科学ともの作り体験型教室は 2 クラス 60 人で年間 6 回開催します。
2. 子どもプラザ高槻」「子どもプラザ堺」も科学ともの作り体験型教室として開講します。
3. 科学フェスティバル」は次の 3 会場にて各実施。大阪（北区民センター）・高槻と堺にてそれぞれ開催します。
4. 伝統文化親子教室、いきいき教室、長居公園にて科学実験と工作教室等を開催実施します。
5. 子どもプラザにて英語教室・こども食堂・絵画教室・落語教室などを盛り込み子ども達との新しい接点を創造する。
6. 以上の構想を広くコーダイ生にも伝え、共に参加活動していくことで全コーダイ生との接点も創造します。

### ●情報管理部門

#### <システム部>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理にて受講決定後、入学案内など発送し、受講生名簿・名札・受講生台帳など入学準備の体制づくりを行います。
2. 受講生、講師、スタッフのデータベース化を推進し個人情報の管理運営に努めます。
3. ホームページでは動画活用及び内容の充実とビジュアル化と告知・報告のスピードアップに努めます。  
また、募集要項、応募状況をリアルタイムに掲載発信します。

#### <デジタル推進部>

1. コーダイネットワークシステムに関するインフラ整備を図り、引き続きデジタル化を進めていきます。
2. オンライン研修を中核にして他部門と協働して、オンラインに関するスキルアップに努めます。
3. オンライン会議、オンライン市民公開講座・パソコン等スキルアップ講座を開催します。
4. 人材を投入しながら全校的な業務の効率化に目指した活動に注力します。

#### <情報処理部>

1. 受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化、並びに修了証書と皆勤証書の発行を行います。

### ●広報部・ファンド部門

#### <広報誌>

「ニューコーダイ創造」を目指して、広報誌「れいんぼー」も受講生の紹介や、受講生の作品を掲載するなど、受講生ファーストの内容に大きく変わります。他にも各講座の活動状況、講師の紹介、イベントなど多くの情報を提供し、受講生、関係機関等との連携を密に図ります。

- ・年4回（1、4、7、10月）発行、基本ページ数16ページ
- ・新規掲載記事の構築（パソコン・スマホ関連、カメラ科・絵画科受講生の作品を掲載）
- ・スタッフのレベル向上を図る（編集講座を開催）

また、チラシ等のフォーマットの統一化を図ります。

#### <パブリシティ>

昨年に引き続き積極的にマスメディアとの協力体制を強化し、CDや受講生の協力を要請してコーダイファンを増やしていきます。

コーダイ通信を定期的に発行し、ラジオ出演や新聞掲載予告をホームページへアップする等、地道な活動により、コーダイの知名度アップを図ります。

各部署のプレスリリース委員による魅力的なプレスリリース作成によりマスメディアを巻き込んで、コーダイの認知度を高めていきます

#### <企業対応>

新たな体制になって1年、今年度から会長が企業対応に加わる事になりました。各企業別に窓口担当を決め、会長と企業窓口との接点作りを行い、企業毎のきめ細かい関係作りをはかります。

## <ファン部>

例年通り正会員、賛助会員、法人会員の拡大を図り、裾野を広げていきます。

著名人の講演等も開催できるようにより一層、ファンレイジングに取り組み、“ニューコーダイここにあり”を示していけるような寄附集めも考えていきたいと思いをします。

目標達成には厳しく遠いが、その距離感を少しずつ縮めていく努力をいたします。

## ●総務部門

「ニューコーダイ創造」の実現に向け、一人一人が何をなすべきか、前例に取らわれていないかを問いかけ、各部門から頼られる「裏方」として行動する集団にチャレンジします。

具体的には2022年度は講座59科目を7教室(教育会館、社会福社会館、助産師会館、梅田、大阪歴史博物館、住之江公園、寺田町)で、より良い受講環境の改善計画を立てます。

また、新型コロナ感染拡大に伴い、計画に当たっては「密閉・密集・密接」の3密の解消並びに換気を念頭に置いて選定します。

さらに、「安心」・「安全」を最優先に考え、全校でコーダイ関係者(講師、スタッフ、CD、受講生、OB、出入り業者等)の感染予防対策を徹底します。

一方、経理部門においては財務システムの強化と各部門における自部門の経費管理が出来るように取り組んでいきます。

地球環境問題への取り組みの中で印刷物削減に寄与するため、数値管理の見える化に取り組めます。

## <経理部>

財務システムの強化を図るため、収支状況の「見える化」に挑戦し、各部門が自らの経費管理が出来るように取り組みます。

また、部内コミュニケーションを図り経理業務の精度向上に努めます。

## <事務局>

- ・本年度も気を緩める事なく感染症が続く事を念頭に置いて、可能な限り授業が継続出来るよう対策を行います。受講前に感染症対策として実施して頂いている検温について、従来の体温計より感度がよく据置型で無人で検温出来る体温計に変更いたします。
- ・学習環境の改善の為、特に短期講座・公開講座用として新たに大阪歴史博物館との間で年間予約が可能になり、本年度より本格的に使用いたします。
- ・南海トラフ等、大阪での地震他の災害の危機が増しております。従来型の避難訓練ではなく、危機を察知して個人として判断し行動出来るよう昨年から実施しています「大阪市消防局出前講座」に加えまして「消防体験教室」「あべのタスカル」等々の紹介を勧めていきます。

## ●募集委員会

社会情勢の激変の中においても、コーダイファンの存在は変わらないと考えます。...

その期待に応えるべく、従来から実施してきた活動と新しい発想による活動を結び付けること



が必要です。

講座改革委員会を中心に決定された募集する講座の内容とその定員を踏まえ、2023 年度募集の活動を開始いたします。

コーダイが初めての方、今年もコーダイに通いたいと思われている方、一人でも多くの皆さんを迎え入れるための活動です。

- ・ 募集活動の内容に応じたチーム編成を行い機動性を発揮する。  
チームを中心に動くことによる一定の効果は発揮されました。さらなる充実に向け検討を重ねます。
- ・ 見やすく簡潔な募集案内冊子を作成する。
- ・ 冊子の配布先及び閲覧状況の確認を徹底する。
- ・ 自治体への広報依頼を確実に行う。
- ・ 講座説明会の会場選定と説明会の進め方を再考する。前年度の声を参考にする。  
市民公開講座の場において、講演終了後に参加者の皆さんを対象に講座説明会を実施することを検討する。
- ・ オープンキャンパスのより効果的な実施方法を模索する。
- ・ CD との連携強化を重要とする。
- ・ 印刷物の内容や印刷数を見直し、経費節減を目指す。

募集活動は新年度開始とともにスタートし、翌年 3 月まで続きます。

如何に多くの方々に、コーダイに興味を持ってもらいそして申込んで頂くか。

そして申込をされた方全員を受講生として入学式に迎えられることが目標です。

## ●コーダイ・なにわの宮会

なにわの宮会は「ニューコーダイ創造」が全校挙げての活動になるように、この内容を受講生に浸透させ、受講生が「ニューコーダイ創造」を体感でき、提言できるような活動を行います。

1. なにわの宮会は第 5 次プロジェクトに入り、新たにスタートいたします。
2. 会員の増員を行い 10 名のメンバーといたします。
3. 教室訪問を理事長または副理事長により行い、受講生の意見・要望を吸い上げます。
4. 新入生歓迎会を行います。他の行事との兼ね合いを考慮し、日程調整いたします。  
受講生がどのような歓迎会を望んでいるかリサーチします。
5. コーダイフェスタ時に於ける物産展を開催いたします。フェスタ実行委員会との話し合い調整の上、行います。
6. 受講生への川柳募集、「れいんぼー」への掲載をいたします。本年度も年 2 回の募集を行い、高大川柳は、なにわの宮会の名物となるように PR し、また、選句を受講生にも依頼し川柳の楽しさを受講生にも味わって頂きます。

## ●NPO法人大阪区民・大阪府民カレッジ

### NPO法人大阪区民カレッジ

1. コーダイの全面的な支援によって創設された地域密着型大阪区民カレッジは、10年を迎えました。創設時3校、受講生77名でスタートし、今年度は7校、受講生306名を迎え入れました。その間、NPO法人大阪府民カレッジが発足し13校、地域密着カレッジは計20校、受講生計860名へと進展しています。
2. コロナ禍が未だ収束しない中、健康第一とし「感染源を断つ」「感染経路を断つ」を徹底し安心・安全なカレッジを目指していきます。
3. コーダイグループとしてグループ相互間の連携発展に努めます。
4. 私たちの地元にもカレッジをとの要望も寄せられており、コーダイグループ、地域の方々と応えていきます。
5. 財務の健全化、人材育成に務めます。

### NPO法人大阪府民カレッジ

1. 2022年度は府下11校に加え吹田校、守口校の2校を新たに開校し、13校となり受講生は全校で544名と昨年を大きく上回りました。
2. このことにより、地域密着型カレッジとして高齢者の居場所が切実に求められている昨今、今後府下全域へ広げていく展望が見えつつあります。
3. さらに、魅力ある府民カレッジを目指して、安定的な学校運営、カリキュラムの充実、財政の健全化、人材の養成、同窓会づくり、地域貢献活動等の重点課題に取り組んでいきます。